

基小だより

明日咲くつぼみ



あま市立基目寺小学校

平成 26 年度 第 2 号

平成26年 5月2日

学校・人・地域 (ESD の取り組みの一環として)

人や地域とのかかわりを学ぶ学習が始まっています。2年生は1年生への校内案内に取り組みました。校内の場所案内とともに、利用方法について説明する姿も見られました。3年生は「地域探検」にまもなく出かけます。地域の公共施設や商店等の場所を実際に歩いて確認し、地図の見方などに結びつけていく学習です。4年生は、自分たちの生活を支えている施設とその役割について学ぶために清掃工場の見学を行います。5年生は自然に親しみ仲間意識を高めることを目的に、野外学習に向けた準備を始めています。そして、6年生は間近に迫った修学旅行に向けて、見学地の内容や公衆マナーについての学習を重ねています。

どの学年も事前の学習や準備を計画的に行うことにより、大きな成果と思い出が期待されます。

授業参観・歌声集会・PTA総会・学年PTA

多数の参観、参加ありがとうございました。子どもたちが「善く生きる」ための答えを1年かけてさがします。そのためには、人や地域とのかかわりが不可欠です。このかかわり



を通して、コミュニケーションの力を身につけ、高めながら、自分なりの生き方を考え実践していくこととなります。そしてやがては地域を担う一員として成長してくれることを願っています。このかかわりの最も身近な存在が保護者をはじめとするPTAの存在です。いろいろな活動に力を貸していただけると幸いです。

クリーンクリーン活動 (5月1日)

前日まで雨が降ったことにより、地面が柔らかく草を抜くには絶好の条件の下、70名以上の保護者のみなさんの参加を得て、全校で除草に取り組みました。活動に先立ち、「一人1本草を取れば600本、10本で6000本。みんなで力を合わせれば大きな力になる」という話をしました。そして児童美化委員長から「理科観察のためにクローバー、タンポポは残してください。」という注意事項を受け、早速活動に取りかかりました。約1時間で集まった草の量は、45ℓ入りビニル袋153袋でした。

まさに「力の結集」を感じさせてくれる量でした。

さらに、全校活動の後にも「やり残したところがある」と自主的に取り組んでくれた学級もありました。子どもたちは「これだけ取った」という充実感にあふれた表情を見せていました。

第2回は9月2日の予定です。

ご協力ありがとうございました。



「早寝・早起き・朝ごはん」

ご存知、文部科学省のキャッチフレーズです。

『子どもたちが健やかに成長していくためには、適切な運動、調和のとれた食事、十分な休養・睡眠が大切です。また、子どもがこうした生活習慣を身に付けていくためには家庭の果たすべき役割は大きいところですが、最近の子どもたちを見ると、「よく体を動かし、よく食べ、よく眠る」という成長期の子どもにとって当たり前で必要不可欠な基本的生活習慣が大きく乱れています。(中略)

このため、平成18年4月24日には、本運動に賛同する百を超える個人や団体（PTA、子ども会、青少年団体、スポーツ団体、文化関係団体、読書・食育推進団体、経済界等）など、幅広い関係者に御参加いただき、「早寝早起き朝ごはん」全国協議会が設立されたところです。子どもたちの問題は大人一人一人の意識の問題でもあり、これを契機として多くの団体とともに、子どもの基本的生活習慣の確立や生活リズムの向上につながる運動を積極的に展開してまいります。』（文部科学省HP）

さて、「朝ごはん」の効果について、興味深い新聞記事がありましたので紹介します。
学校でも「朝ごはん食べてきましたか？」
という問いかけをしていきたいと思います。

【お知らせとお願い】

■ 帽子の着用呼びかけ

- ・ さわやかな季節になりましたが、日差しは日ごとに強くなり日中の気温が25℃を超える日もあります。熱中症予防のため、休み時間に運動場で遊ぶ際には帽子の着用を呼びかけています。

■下校後・休日の遊び場所について

- ・ 地域の方から「小学生の子が敷地内に入って遊ぶことがある」という連絡をときどき受けます。駐車場など気づかずに入ってしまうこともあるようです。だれでも自分の家の敷地に見知らぬ人物が入ってくることは、気持ちのよいものではありません。各担任から注意を促しましたが、各家庭でも呼びかけをしていただけると幸いです。

「ヒドウンカリキュラム」

新聞を読んでいたら聞き慣れないこの言葉が目に入りました。調べてみると、「教師や親の無意識的、無自覚的な言動により、児童や生徒へ伝わっていく知識、価値観、行動様式などのことである。『潜在的カリキュラム』または『隠れたカリキュラム』とも呼ばれ、1968年にシカゴ大学の研究者、フィリップ＝ジャクソンによって提唱された」ということでした。

このことを日常生活のいくつか当てはめてみると、

大人が笑顔でいれば、子どもも笑顔が増える。

大人が活発に動けば、子どもも活発になる。

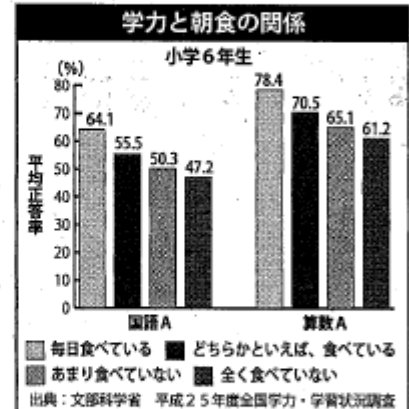
大人が怒っていると、子どもも怒った表情が多くなる。

ということになります。改めて大人としての言動は、自分だけのものではないと感じました。

毎日の朝食で
学力アップ

早寝早起き朝ごはん協議会
がニュースレターで啓発

朝食を毎日食べている子どもの学力は、そうでない子どもより高い――。「早寝早起き朝ごはん」全国協議会は、このほどニュースレター「平成25年度全国学力・学習状況調査における生活習慣と学力の関係について」の結果について発表した。

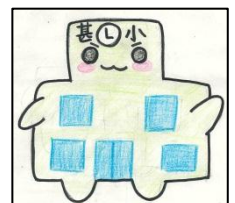


それによる、小学校6年生を対象とした調査において、朝食を毎日食べている児童の国語の平均正答率は64・1％と、算数も同様で、毎日食べている児童が78・4％、55・5％、あまり食べていない50・3％、全く食べない47・2％で、朝食を食べる頻度が高いほど学力に影響していることは明らかな」とし、「早寝早起朝ごはん」を今後も広く呼びかけていくとしている。

え、同協議会では「朝食や規則正しい睡眠が子ども

「睡眠については『毎日同じくらの時刻に寝ているかどうか』と正答率の関係が示されており、国語も算数も『寝ているが最も高く、どちらかといえは寝ている、あまり寝ていない、全く寝ていないの順に正答率が下がっていった。』」

【教育新聞 H26.4.16】



甚小キャラクター
「じんちゃん」